

物價變動ノ原因(二)

河 上 肇

三 貨幣ノ數量ト一般物價——其二、貨幣數

量說ト信用取引トノ關係

以上述べ來リタル範圍ニ於テ考フレバ、貨幣數量說ハ二個ノ大假定ヲ許ス限リ一應正シキモノナリト言ヒ得ルノデアル。即チ其ノ第一ノ假定ハ、既ニ述ベシ如ク、全ク信用取引ヲ無視シ、取引ハ凡テ貨幣ヲ以テ行ハレツツアリト看做スコトデアリ。第二ノ假定ハ *Real Quantity* ト云フ物價方程式ヲ以テ一ノ因果關係ヲ表スモノト爲シ、且因果關係上ノハ常ニ受動的的地位ニ立チ、從ツテ其ノモノノ變動ノ原因ハ必ズ *M*、*V*、*Q* 等ノ變動ニ存スルト同時ニ、其ノモノノ變動ガ原因トナリ之ガ結果トシテ *M*、*V*、*Q* 等ニ變動ヲ生ズルガ如キコトハ全クコレナキモノト看做スコトデアアル。乍併、ノ如キ大假定ハ只假定トシテノミ打棄テ置クコト能ハザルガ故ニ、貨幣數量說ニトリテ更ニ問題ト爲ルハ、此等ノ假定ヲ除キ去ルコトニ依リテ生ズベキ議論ノ缺陷ヲバ、他ノ方面ヨリシテ之ヲ補足スルコトデアアル。詳ク言ハバ、第一ニ前ニ掲ゲタル方程式ハ凡テ物ノ賣買ガ現金ノ受授ヲ伴

フモノトシテ立テラレタルモノナレドモ、今日ノ實際ニ於テハ信用取引廣ク行ハレ居ルガ故ニ、
 上記ノ方程式ハ先ヅ此事ヲ計算ニ入レテ訂正シナケレバ勿ラスノデアル。第二ニ、此方程式ハ單
 ニ諸種ノ現象ノ共存關係ヲ示スノミニ止ラズシテ、更ニ一定ノ方向ニ於テ因果關係ヲ示スモノナ
 ルコトヲ立證シナケレバ勿ラスノデアル。コハ何レモ困難ナル問題ニシテ共ニ複雑ナル議論ヲ伴
 フラ免レザレドモ、以下順序ヲ追ウテ其議論ノ骨子トスル所ヲ述ブベシ。

*

既ニ述ベシ如ク、前記ノ方程式ハ、凡テ物ノ賣買ハ現金ノ受授ヲ伴フモノト假定シテ立テラレ
 タルモノナルガ故ニ、之ヲ今日ノ社會ニ適用センガ爲ニハ、信用取引ノコトヲ計算ニ入レテ、方
 式ノ形式ヲ訂正シナケレバナラスノデアル。仍テふいしやト氏ハ、貨幣ノ代用物タル預金通貨(銀
 行ノ當座預金ヨリ成リ立ツモノニテ、預金主ハ之ニ向テ小切手ヲ振り出シ、其小切手ヲ以テ貨幣
 ノ代用ニ充ツ)ヲ表スニ M' ヲ以テシ、其流通速度(小切手ニ依リテ銀行ノ當座預金ガ物ノ賣買ノ
 用ニ供セラルル度數)ヲ表スニ V' ヲ以テシ、而シテ $M'V'$ ヲ以テ信用取引ノ全體ヲ表スモノト爲
 シ、カクテ現金取引及ビ信用取引ノ並ビ行ハルル今日ノ社會ニ於テハ、其物價方程式ハ正ニ次ノ
 如クナルベキデアルトシテ居ル。

$$QP = MV + M'V' \quad \text{又ハ} \quad P = \frac{M + M'V'}{Q}$$

此方程式ハ之ヨリ後ノ議論ノ基礎ト爲ルセノナルガ、今之ニ就テ吾々ガ先ツ注意シ置クノ必要アルハ、*Money*ハ決シテ信用取引ノ全部ヲ包含スルモノニ非ザルコトデアル。蓋シ英米ノ如キ小切手取引ノ盛ナル國ニ於テハ、個人ノ間殊ニ商人ノ間ノ信用取引ノ多クハ、銀行ノ當座預金ニ向ツテ振り出サルル小切手ニ依ツテ行ハレツツアルガ故ニ、*Money*ハ先ヅ信用取引ノ總額ヲ示スモノト見テ大差ナガルベシト雖モ、而カモ正確ニ言ハバ、當座預金ニ向ツテ振り出サルル小切手ノ外ニ *cashiers' checks*, *certified checks* 等ガアルノミナラズ、信用取引ト稱セラルルモノノ中ニハ、爲替手形、約束手形等凡テ手形類ノ振出ニ依ル信用賣買、*Bank Credit* 即チ商業帳簿記入式ニ依ル信用賣買、及ビ個人間ノ口頭約束ニ依ル信用賣買ヲモ、之ニ加算シナケレバ勿ラヌノデアル。此事ハ、米國經濟協會ノ第二十三回ノ大會ニ於テふいしやー氏ガ前記ノ方程式ヲ引用シテ物價論ノ講演ヲ爲セシ際、當時列席者ノ一人ナリシヘッす氏ノ指摘シタ所デ、余モ亦然リト考フル者デアル。⁽¹⁾

尤モ此點ニ就テハ、ふいしやー氏自身ガ一定ノ辨明ヲシテ居ルノデアルカラ、其ヲ無視シテ議論ヲ進メルノハ不當デアル。氏ノ説ニ依レバ、帳簿信用及ビ約束手形ノ利用ノ如キハ毫モ貨幣又ハ小切手ノ使用ヲ節約スルノ力ナキモノデアル。何故ト云フニ、帳簿信用又ハ約束手形ヲ利用シテ物ヲ買ヒ取りタル人ハ、後日一定ノ貨幣又ハ小切手ヲ支拂ノベシトノ約束ニ依ツテ物ヲ買ヒ取ツタノデアル。サレバ『銀行信用 (bank credit)』ト異リ、時間信用 (*time credit*) ハ、直接ニ貨幣ノ

(1) Bulletin of the American Economic Association, 4th Series, No. 2, p. 65.

拙著『金ト信用ト物價』三二、三三、三四頁參照

(2) The Purchasing Power of Money, Appendix to chapter V, § 1. pp. 370, 371.

使用ヲ節約スルモノデハ無イ。一定ノ期限ガ來レバ、之ニ對シテ貨幣又ハ小切手ヲ支拂ハナケレバ勿ラヌカラ、最初ニ現金ヲ支拂ツタト同ジコトデ、畢竟其ノ直接ノ效果ハ、單ニ貨幣ノ使用ヲ延期スルダケノモノデアアル。』

ふいしや一氏ハ此ノ如ク辨明シテ居ル。乍併、最近ニハ既ニあんだ一そん氏⁽³⁾モ論ジ居ル如ク、第一ニハ、小切手ヲ使用スル場合ニ於テモ、其一部ハ單ニ貨幣ノ使用ヲ延期スルニ止リ、後日ニ至リ現金ノ受授ヲ必要トスルモノガアリ、第二ニハ帳簿信用其他銀行ヲ介セザル信用ノ受授ノ中ニハ、互ニ債權債務ヲ相殺スルコトニ依リ、後日ニ至ルモ遂ニ現金ノ受授ヲ必要トセザルモノアル故、銀行信用ト時間信用トハ、貨幣ノ使用ヲ節約スル上ニ於テ、只程度ノ差異ヲ有スルニ過ギザルモノニテ、ふいしや一氏ノ如ク之ヲ以テ全ク別種ノモノト看做スハ不當ナリトシナケレバナラス。猶ホ獨逸ニ於テハ預金振替^(giro-system)ノ方法ニ依リテ貨物ノ取引ヲ爲スコト相當ニ廣キ範圍ニ於テ行ハレ居レドモ、ふいしや一氏ノ如ク謂ヘルモノハ、氏ノ説明ニ依ルニ、小切手ニ依リテ流通セラルル預金^(the deposits subject to transfer by check)ノコトナレバ、振替ノ方法ニ依リテ流通セラルル預金ハ之ヲ包含セザルモノトシナケレバ勿ラヌ。サレバ、假ニBヲ以テ帳簿信用^(book-credit)ノ金額ヲ表ハシ、Aヲ以テ帳簿信用ノ一定平均額ガ一定ノ期間内ニ使用セラルル回数ヲ表ハシ、又Cヲ以テ爲替手形^(bill of exchange)ヲ表ハシ、Dヲ以テ其流通回数ヲ表ハシ、更ニ

(3) Anderson, The Value of Money, 1917, p. 168.

Gヲ以テ振替ノ方法(Brio-system)ニ依リテ流通セラルル預金ヲ表ハシ、 P^I ヲ以テ其流通速度ヲ表ハシ最後ニOヲ以テ以上列舉セシ以外ノモノニテ貨幣ノ代用物タリ得ルモノヲ表ハシ、 P^{II} ヲ以テ其流通速度ヲ表ハサンカ、畢竟物價方程式ハ之ヲ完全ニ書キ表ハサバ、次ノ如クナルベキデアル。

$$MV + M'V' + BV'' + EV''' + GV'''' + OV'''' = PQ$$

然ルニふじしゃー氏ハ $BV'' + EV''' + GV'''' + OV''''$ ヲバ全ク無視シ、物價方程式ヲ $MV + M'V'$ ニ依リテ PQ トイフ極メテ簡單ナル形式ニ纏メ、之ニ基イテ其ノ獨特ノ物價論ヲ發展セシメテ居ルノデアル。

之ニ依ツテ考フレバ、縦ヒ主張者自身ハ如何ニ考ヘ居ルトモ、吾々ヨリ見レバふじしゃー氏及ビ其一派ノ人々(例ヘバけめらー氏、ばーかー氏等)ノ物價論ハ、信用取引ヲ以テ預金通貨ニ依ル取引(銀行ヲ介シ小切手ニ依リテ行ハルル取引)ト同視シ、ソレ以外ノ信用取引ハ全ク之ヲ無視スルコトヲ以テ、其ノ假定的前提ノ一ツト爲セルモノト看做サナケレバ勿ラス。後ニモ述ブルガ如ク、此一派ノ人々ノ議論ハ、種々ナル假定ヲ立テテ前後ヲ纏縫スルコトニ依リ、漸ク維持セラレ得ルモノデアル。而シテ其假定ノ中ニハ、彼等自ラ意識シテ之ヲ明言セルモノ、又ハ全ク意識セズシテ之ヲ看過セルモノ、乃至之ヲ事實ト看做シ其ノ假定タルニ過ギザルコトヲ認容セザルモノ等種々ノ差異ガアルガ、以上述ベシ所ノモノハ其ノ多キガ中ノ一ツデアル。余ハ後ノ議論ノ

便宜ノ爲メ姑ク之ヲ第一假定ト名ク。

扱テ信用取引ノコトヲ計算ニ入レ、且前述ノ第一假定ヲ認ム時ハ、吾々ハ今日ニ於ケル物價方程式ヲ次ノ形式ニ表ハスコトヲ得。

$$QP = MV + M'V' \quad \text{即チ} \quad P = \frac{MV + M'V'}{Q}$$

然ルニ方程式ヲ此ノ如ク書キ改ム時ハ、吾々ハ此方程式ヨリ貨幣數量說ヲ引キ出シ能ハザルコトト爲ル。言ヒ換フレバ、 M 即チ貨幣ノ數量ノ増減ハ、他ノ事情ニシテ變化ナキ限り、之ニ正比例スル所ノ變化ヲ P 即チ一般物價ノ上ニ惹キ起スモノナリト云フ命題ハ、此方程式ヨリ引キ出スコト能ハザルニ至ル。乍併、ふいしやー氏ノ意見ニ依レバ、吾々ハ此方程式ト全ク關係ナキ或他ノ事情ヨリシテ(其ノ謂フ所ノ事情ナルモノハ後ニ至ツテ述ブベシ)、 M (貨幣ノ數量)ノ變化ハ M' (小切手ノ振り出サルベキ預金通貨ノ數量)ノ上ニ比例的ノ變化ヲ惹キ起シ、而シテ V (貨幣ノ流通速度) V' (預金通貨ノ流通速度)及ビ Q (取引サルル財ノ數量)ニハ何等ノ變化ヲモ惹キ起スモノニ非ザルヲ知ルコトガ出來ル。故ニ吾々ハ其ノ必然ノ結論トシテ、 M 即チ貨幣ノ數量ニシテ變化スル時若シ之ト同時ニ他ノ原因アリテ M' 、 V 、 V' 又ハ Q ノ何レカニ變化ヲ起シ、之ガ爲メ M ノ P ニ及ボス影響ヲバ、或ハ強メ或ハ弱ムト云フコトノ有ラザル限り、 M 即チ貨幣ノ數量ノ増減ハ、正確ニ

之ニ比例スル所ノ變化ヲバ、*P* 即チ一般物價ノ平準ノ上ニ惹キ起スモノニシテ、言ヒ換フレバ貨幣數量説ハ、貨幣ノ數量ノ變化、*Q*、自身ノ關係スル限リニ於テハ、其ノ一般物價ニ及ボス影響ハ嚴密ニ其數量ノ變化ニ正比例スルモノナリト云フ意味ニ於テ、信用取引ノ廣ク行ハレツツアル今日ニ於テモ、猶價值アル學説ト看做サナケレバ勿ラヌト云フノデアル。

以上ガふいしヤー氏ノ推論ノ徑路デアルガ、之ニ依ツテ考フレバ、信用取引ノ廣ク行ハレツツアル今日ニ於テモ、貨幣數量説ハ猶正シキモノナリト云フ氏ノ主張ニトリテ、先ヅ最重要ナル關係ヲ有スルモノハ *M* (貨幣ノ數量) ノ變化ハ必ズ之ニ比例スル所ノ *M* (預金通貨ノ數量) ノ變化ヲ伴フモノナリト云フ主張デアル。然ラバ氏ハ如何ナル理由ニ依ツテ此ノ如キコトヲ主張スルカト云フニ、其大要ハ次ニ述ブルガ如クデアル。

信用取引ニシテ全ク行ハレ居ラザル時代ニ於テハ、縱ヒ一般物價ト貨幣ノ數量トノ間ニ如何ニ密接ナル關係アリシトスルモ、已ニ流通信用 (Circulating credit) ノ譯語ニシテ流通貨幣 (Circulating money) ト云フ語ト正ニ相並立スルモノ) ニシテ行ハルルニ至ラバ、其關係ハ全ク破ラレ了リ、從ウテ貨幣數量説モ全ク其價值ヲ失フモノナリト云フコトハ、貨幣數量説ニ反對スル人々ノ能ク説ク所デアル。思フニ若シ流通信用ニシテ流通貨幣ト全ク無關係ノモノナラバ、此議論ハ正シイ。乍併、事實ニ於テ *M* 即チ流通信用ノ分量ハ、*M* 即チ流通貨幣ノ分量ニ對シ、常ニ一定ノ關係ヲ保

ツ傾向アルモノニテ、言ヒ換フレバ、預金ノ額ハ、正常ノ場合ニ於テハ、常ニ貨幣額ノ略ボ何倍カニ相當シツツアルモノデアル。

而シテ預金額ガ、正常ノ場合ニ於テ、貨幣額ニ對シ、此ノ如ク略ボ一定ノ比例ヲ保ツ所以ハ、二個ノ事實ニ本ク。第一ハ凡テ銀行ノ準備金 (Bank reserves) ハ銀行預金ニ對シ略ボ一定ノ比例ヲ保ツト云フコトデアル。第二ハ、凡テ吾人ハ取引ニ際シ現金取引ト信用取引トノ間ニ略ボ一定ノ比例ヲ維持シ、從ツテ又、手許ニ留保シ置ク貨幣額即チ手許現金高ト預金高トノ間ニ略ボ一定ノ比例ヲ維持スルモノナリト云フコトデアル。例ヘバ、商店會社等ハ、勞賃其他雜費ノ名ノ下ニ包含セラルル小金額ノ取引ニハ貨幣ヲ用フレドモ、彼等相互ノ間ニ於ケル取引上ノ勘定ニハ小切手ヲ用ウルガ常デアル。此ノ如ク、吾人ハ此等二種ノ支拂方法ノ使用ニ就キ、略ボ其間ニ一定ノ比例ヲ保ツモノニテ、短期間ノ外ハ甚シク其比例ヲ變動スルコトナキモノデアル。サレバ若シ手許ニ在ル現金ガ割合ニ少クシテ、銀行ニ預ケ入レ居ル預金ガ割合ニ多クナルナラバ、預金ノ一部ヲ引出シテ之ヲ現金ニ換ヘ、反對ノ場合ニハ、現金ヲ預入ルルコトニ依リ、手許ノ現金ヲ減ジテ銀行ノ預金ヲ殖スコトト爲シ、此ノ如クニシテ又、現金手許在高ト銀行預金トノ比例ヲバ、常ニ現金取引ト信用取引トノ比例ニ順應セシムルモノデアル。今此事實ヲ全國ニ推シ及ボシテ考フルナラバ畢竟 M (貨幣ノ數量) ト M' (預金ノ數量) トノ間ニハ世上ノ習慣及ビ便宜上略ボ一定ノ比例アル

モノナリト云フコトガ出來ル。

M ト M' 、即チ貨幣ノ數量ト預金ノ數量トハ、正常ノ場合ニ於テハ、略ボ一定ノ比例ヲ維持スル傾向ヲ有スルモノナリト云フふいしヤー氏ノ議論ハ、略ボ以上ノ如クデアアル。然ルニ今余ノ見ル所ニ依レバ、其第一論據ハ、只銀行ノ預金額ト其準備トナリテ流通市場ヨリ引去ラルベキ貨幣額トガ一定ノ比例ヲ保ツト云フダケノコトニテ、 M' ト M トノ關係、即チ銀行ノ預金額ト世上ヲ流通シツツアル貨幣額トノ關係ニハ、何等直接ノ交渉ナキ事柄デアアル。又其第二論據ハ、一定ノ社會ニ於ケル現金取引ト信用取引トノ割合ガ略ボ一定シ居ルト云フコトヲ證明シタルダケノコトニテ、即チ議論ハ、 M ト M' トノ比例ノコトニ係ハリ、 M ト M' トノ比例ノコトニハ何等直接ノ交渉ナキモノデアアル。故ニ氏ノ議論ハ要求セラルル點ニ就テ未ダ十分ナル辨明ヲ爲シ得ザルモノト判斷シテ差支アルマイト行ヘル。

*

蓋シ上記ノ點ニ就テハ、同ジク貨幣數量説ヲ採レルば一カー氏ノ説明ノ方、ふいしヤー氏ノ其レニ比シ、遙ニ優リ居ルモノノ如ク思ハル。仍テ以下更ニ氏ノ所説ノ要領ヲ摘録スベシ。曰ク信用取引ノ發達ハ、第一、社會ニ於ケル一般人ノ取引上ノ慣習ニ依ツテ左右サレ、第二ニハ銀行業ノ普及、發達、并ニ其營業振リノ如何ニ依ツテ左右セラルルモノデアアル。(銀行業ニシテ普及シ發達スル

(1) 委細ハ拙著『金ト信用ト物價』七七一八八頁ノ間ニ論述シ置ケリ

(2) Barker, Theory of Money, 1913.

ニ非ザレバ、信用取引ノ廣ク行ハルルニ至ラザルコトハ殆ド言チ俟タザレドモ、コノ銀行業ノ普及發達ト云フコトト同様ニ信用取引ノ發達ノ上ニ重大ナル關係チ有スルモノハ、銀行ノ營業振リテアル。例ヘバ、米國ニ於テハ銀行業者間ノ競争激シキ爲ニ僅ナル金額ノ預金主ニ對シテモ小切手ノ發行ヲ許シ居レリ。從ウテ五十仙乃至二十五仙、時トシテハ其ヨリモ猶小額面ノ小切手發行セラレツツアリト云フ。米國ニ於テハ、凡テノ實質取引中八割乃至八割八分ハ小切手ニ依リテ行ハレツツアリトノコトナルガカル程度マデニ信用取引ノ發達シツアルハ、上記ノ如キ銀行ノ營業振リガ其一原因ト爲ツテ居ルノデアラウ。而シテ此ノ如キ信用ソレ自身ノ發達ニ本ク信用取引ノ増加ハ、同時ニ現金取引ノ範圍ヲ縮少スルモノナレドモ、姑ク此ノ如キ信用ソレ自身ノ發達ヲ無視スルナラバ、一定ノ時、一定ノ社會ニ於テハ、ふいしやー氏ノ言ヘルガ如キ理由ニ本キ、信用取引ト現金取引トハ大凡ソ一定ノ比例ヲ保ツモノニテ即チ一方ガ増スレバ他方モ亦之ニ伴ウテ増加シ、一方ガ縮少スレバ他方モ亦之ニ從ウテ縮少スルモノデアアル。乃チ吾々ハ斯カル理由ニ依リテ $M'V' = \frac{M}{M'} = \frac{M}{M'}$ ナル式ヲ立テ得ルモノニテ、且此式ノ中ニアアルハ不變數ナリト考ヘ得ルノデアアル。故ニ此點ニ至ルマデハ、ふいしやー氏ノ主張ハ略ボ正シイト見テ差支ナイ。乍併、今直ニ此式ヨリシテ、氏ノ言ヘルガ如ク、 M ト M' トハ一定ノ比例ヲ保ツモノナリト結論スルハ早計デアアル。但シ實際ニ於テハ V 及 V' （貨幣及ビ預金通貨ノ流通速度）ハ極メテ徐々ニ變化スルモノ故、若シ吾々ガ此ノ V 及 V' ヲバ姑クこんすたんとモトトスルノ假定ヲ許スナラバ、吾々ハ上記ノ式ヨリ更ニ $M' = \frac{M}{V'}$ ト云フ式ヲ引キ出シ、且此式ノ中ノ V ヲ以テ矢張り不變數ト看做スコトヲ得ルノデアアル。

(1) 余嘗テ此事ヲ拙著『金ト信用ト物價』ニ於テ論ズルヤ、余ノ批評ヲ非ナリトスルノ説モアリタレド、同シ貨幣數量説ヲ探レルバ一かー氏サヘ、此點ニツイテハ、 $M' = \frac{M}{V'}$ ト云フ式ニ對シ余ト同一ノ批評ヲ下シテ居ルノデアアル。

M ト M' トガ一定ノ比例ヲ保ツモノナリトノば、 1 カ 1 氏ノ説明ハ、以上述ブルガ如ク、種々ノ假定、種々ノ條件ヲ設ケアルダケ、ふいしヤト氏ノ議論ト相違シ、其ノ假定セル條件ヲ認ムル限り正シキモノナリトセザルヲ得ヌガ、氏ハ猶續イテ次ノ如ク論ジテ居ル。

吾人ハ又ふいしヤト氏ノ言ヘルト略ボ同一ノ理由ニ本キ、銀行ノ預金ト其準備金ト爲レル貨幣(及ビ地金)トハ、一定ノ景氣ノ下ニ於テハ、略ボ一定ノ比例ヲ保ツモノナリト看做スコトヲ得。

サレバ此銀行準備金ヲ表スニ R ヲ以テセバ、 $M \parallel R$ ト云フ式ガ出來、且式中ノ C モ亦或不變數デアルト云フコトニ爲ル。然ルニ既ニ述ベシ如ク $M \parallel M$ ナルガ故ニ、吾人ハ此ノ二ツノ式ヨリ更ニ、 $R \parallel \frac{b}{a} M$ ト云フ式ヲ引キ出スコトヲ得。仍テ遡リテ $P \parallel \frac{MV+M'V'}{Q}$ ナル式ニ就テ考フル

ニ、若シ V 、 V' 、 Q ニシテ變化ナカラシカ、吾人ハ此式ヨリシテ、 $M+M'$ (貨幣ト預金トヲ合計シタル額)ノ變動ハ常ニ之ニ正比例スル所ノ P (一般物價)ノ變動ヲ伴フモノナリ、ト言フコトガ出來ル。然ルニ前ニ述ベタルガ如キ若干ノ假定ノ下ニ於テハ $M \parallel bM \parallel cR$ ナルガ故ニ、若シ $M+M'$ ノ變動ハ常ニ之ニ正比例スル所ノ P ノ變動ヲ伴フモノナリト云フコトガ正當デアラナラバ、之ト同時ニ、 $M+R$ (流通貨幣ト銀行ノ準備預金トヲ合計シタルモノ)又ハ單ニ M (流通貨幣ノ數量)ノ變動ハ常ニ之ニ正比例スル所ノ P (一般物價)ノ變動ヲ伴フモノナリト言フコトガ出來ル。而シテ M (貨幣)ノ増減ハ常ニ之ニ正比例スル所ノ P (物價)ノ高低ヲ伴フモノナリト云フコトハ、即チ

貨幣數量説ノ主張ソノモノニ外ナラス。猶貨幣數量説ニ反對スル者ハ、ソノ所謂貨幣トハ、世上ヲ流通スル貨幣ヲ意味スルカ、或ハ之ニ銀行ノ準備金ヲ合計シタルモノヲ意味スルカト質問スレドモ以上述ブル所ニ依ツテ見レバ、此等ノモノハ決シテ各々獨立セルモノニ非ズシテ、互ニ一定ノ比例ヲ保チ居ルモノナルコトガ分ル。サレバ貨幣ノ數量ト云フコトヲ何レニ解ストスルモ、貨幣數量説ハ正シト言ハナケレバ勿ラス。

*

以上ガふいしヤー氏ノ議論ニ改修ヲ加ヘタば、かー氏ノ議論ノ要領デアルガ、之ニ依リテ見レバ、氏ノ試ミタル改修ノ主ナルモノハ、ふいしヤー氏ガ事實ニアラザルコトヲ強キテ事實ナリト主張シ居ル點ヲ改メ、之ヲバ假定ノ條件トシテ前提セントシタル點ニ在ル。言ヒ換フレバ、かー氏ハ多クノ假定ヲ設ケ、之ヲ支柱トシテ、ふいしヤー氏ノ主張ヲ維持セント試ミタモノデアアル。今前掲ノ所論ヲ檢シテ、其中ニ包含セラルル假定ノ主要ナルモノヲ摘出スルナラバ、略ホ次ノ如キモノガアル。

第一、信用ソレ自身ノ發達ヲ無視スルコト。換言スレバ、信用取引ト現金取引トノ割合ハ常ニ一定セリト假定スルコト。——余ハ便宜ノ爲メ、前ニ述ベ置キシ第一假定ニ對シ、之ヲ第二假定ト名クベシ。

第二、レ即チ貨幣ノ流通速度ノ變化ハ之ヲ無視スルコト。換言スレバ、貨幣ノ流通速度ハ一定不變ナリト假定スルコト。——假ニ之ヲ第三假定ト名ク。

第三、 P 即チ預金通貨ノ流通速度ノ變化ハ之ヲ無視スルコト。換言スレバ預金通貨ノ流通速度ハ一定不變ナリト假定スルコト。——假ニ之ヲ第四假定ト名ク。

余ハ先キニふいしやー氏ノ所謂交換方程式ニ本ク貨幣數量説ハ、二個ノ大假定ヲ許ス限リ一應正シキモノナリト言ヒ得ル旨ヲ述べ、且其ノ大假定ノ一ハ信用取引ヲ全ク無視スルコトナレドモコハ只假定トシテノミ打棄テ置クコト能ハザル大假定ナルガ故ニ、貨幣數量説ニトリテ更ニ問題ト爲ルハ、先ヅ此ノ第一ノ大假定ヲ除キ去ルコトニ依リテ生ズベキ議論ノ缺陷ヲバ、他ノ方面ヨリシテ之ヲ補足スルニ在ル旨ヲ述べタガ、今其ノ補足ノ結果ハ如何ニト云フニ、一個ノ大假定ヲ除ク代リニ、約四個ノ假定ヲ設クルノ餘儀ナキニ立到ツテ居ルノデアアル。即チ貨幣數量説ハ、信用取引ヲ全ク無視スト云フ大假定ヲ除ク代リニ、第一ニハ信用取引ハ凡テ銀行ヲ介シ小切手ニ依リテ行ハレ居ルモノト看做シ其レ以外ノ信用取引ハ凡テ之ヲ無視スト云フ假定、第二ニハ信用取引ト現金取引トノ割合ハ常ニ一定セリト看做シ信用ソレ自身ノ發達ヲ無視スト云フ假定、第三ニハ貨幣ノ流通速度ハ常ニ一定セリト看做シ之ガ變化ヲ無視スト云フ假定、第四ニハ、預金通貨ノ流通速度ハ常ニ一定セリト看做シ之ガ變化ヲ無視スト云フ假定、此等四個ノ假定ヲ新タニ設ケザルヲ得ザルニ至ツタモノデアアル。併シ問題ハ未ダ之ニテ盡キタルニハ非ズ。ふいしやー氏ノ如ク物價方程式ヲ根據トシテ論ズルモノニ在ツテハ、更ニ進ンデ、其物價方程式ト謂フモノガ、數種ノ現象ノ單ナル併存關係ヲ示スノモノニ非ズシテ、其ノ間ニ於ケル因果關係ヲ表ハスモノナルコトヲ論證シナケレバ勿ラヌノデアアル。(未完)